

受験生はセンター試験での目標点を12月の「センター試験本番レベル模試」で突破を目指そう！ 高2・高1生は立ち位置を確認し、ここからスタートしよう！

I. 全体講評

「全国統一高校生テスト」の国語の平均点は、受験生が一〇六・六点（二〇〇点満点）であった。高2生・高1生でチャレンジした諸君の中には、非常によい結果が出た諸君もいたが、そうではなかったとしても問題は無い。むしろ、このテストを受験し、自分の現在の立ち位置を知ること

ができたことが、今後の勉強に大きくプラスになる。高2生・高1生でチャレンジした諸君は、それぞれの学年の中でも、意欲の高い諸君であると思うが、受験生との差は歴然としていることは実感できたであろう。「国語はやってもやらなくても変わらない」ということはないのである。試験問題である以上、国語も、勉強をした人に成果が表れるということをお肝に銘じてほしい。

受験勉強のスタートは、早ければ早いほど有利だ。ぜひ、このテストをきっかけに本格的な受験勉強をスタートさせよう。

受験生はセンター試験の申し込みも済み、いよいよ来年一月の本試が目前に迫ってきている時期で、今までの勉強の成果が表れてきていることと思う。残念な結果となってしまう諸君はここからは、センター試験の対策を本格的に始めよう。センター試験の過去問を利用し、正解の根拠を考えながらしっかりと解くことで、まだまだ得点力を伸ばす。毎日の勉強にセンター試験の問題演習を必ず組み込み、最終12月の「センター試験本番レベル模試」で目標点の突破を目指して計画的に勉強を進めよう。

分野で見ると、現代文は平均得点率が六割程度であり、ここからの日々の過去問演習で、各自の目標点をめざせようである。古典については、漢

文は、句法や重要漢字の習得もある程度進んでいるようで、結果として出つつあるようだが、古文の伸びはいま一つであった。古文の問2の文法問題で、動詞の「なる」を断定の助動詞「なり」と判断している受験者が多いことからすれば「出題された古文が難しかった」という言い訳は通らない。まだまだ勉強不足である。早急に読解のための文法事項と重要古語を確認しつつ、過去問演習を日々の勉強に組み込んでもらいたい。

高2生・高1生も、現代文については悪い結果ではなかったが、古典については、圧倒的に受験生に差をつけられている。これは、覚えるべきことが覚えられておらず、本文が読めていないことが原因である。古文の重要古語、読解のための文法事項、漢文の重要漢字とおもな句法について、集中して覚えてしまおう。そうすれば、現代文以上に、一気に成績を伸ばせるはずだ。

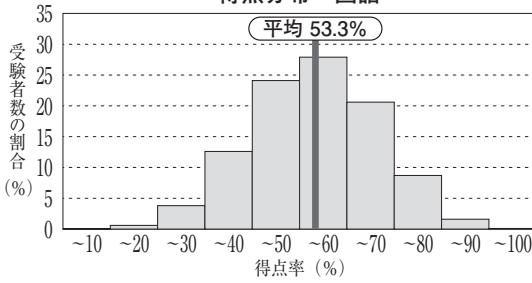
II 大問別分析

第1問 (評論)

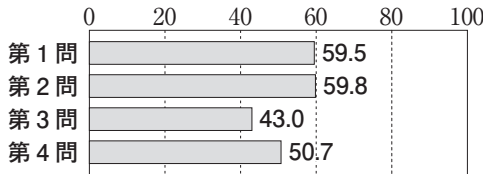
選択肢の検討に入る前に「正解のイメージ」を持つよう！

今回の得点率は五九・五%で、ほぼ六割という結果であった。

得点分布 国語



大問別得点率 (%)



問1の漢字問題で正答率が低かったのは(ウ)「穩当」と(エ)「内省」である。語彙力の有無が正否を分けたようだ。漢字の学習を語彙力増強と位置づけ、コツコツ努力を続けよう。

問2の正答率は八六・二%と高かった。②や③を選んで間違えた諸君は、選択肢を丁寧に読むことを心がけよう。

問3は正答率が二二・九%で、今回最も正答率の低かった設問であった。それは正答の④の内容が本文に直接的には書かれていなかったことにある。「理由を問う設問」では、本文の内容から推測して「妥当と思われる理由が述べられている選択肢」が正解になることがある。選択肢の検討に入る前に「正解のイメージ」を持つことができたであろうか(もちろん、勝手な想像は論外である)。今回は「もともと負荷の大きいもの」と筆者が考える理由が問われていた。誤答が多かった①と③は、「もともと(他の二つの禁止表現よりも)負荷が大きい」と言える理由にそもそもなっていない。

問4・問5・問6は、五五〜六〇%ちよつとの出来で、まずまずだが、設問自体の難易度は、実はどれもさほど高くはなかった。解説を確認して、悔しい思いをした諸君もいたことだろう。三問のうち、一問でも正解していれば、八点上昇した。本番で八差は大きい。ここからは本文の難解さや分量の多さに圧倒されることなく、落ち着いて読み、素早く正解を選ぶ力をセンター試験の過去問演習を通じて身につけよう。

第2問 (小説)

選択肢に用いられている「比喩」「客観的」といった重要語の理解を正確にしておこう!

今回の得点率は五九・八%で、評論同様ほぼ六割の出来であった。

文章は昭和前期の時代背景でそれほど読みやすい文章ではないが、センター試験の過去問演習を進めている諸君にとっては、設定も叔父と娘の心の交流で、特殊なものでもなかったため、十分対処できたようだ。

問1はできていたが、(ウ)の「叱責する」の正答率がやや低かった。誤答は④「大声を張り上げる」に集まった。設問文に、「本文中における意味」とあるので、本文に当てはめてイメージにあうと考えたのだろうか、言葉の意味は、あくまでも辞書的な意味を優先して考えなければならぬ。

問3は正答率が七二・五%と高かったが、④と答えた者が二〇・〇%もいた。正答の③に比べて叔父のことを思う主人公の心理が誇張されている点に違和感を覚えてほしかった。

問4の正答率は四五・四%と低かった。主人公の娘が恐怖に駆られて叔父に帰宅を要求する言葉だが、案外、微妙な感情を含んでいる。①②の選択肢との判別に苦しんだようだが、選択肢の最後までを冷静に読めば、誤りに気づいたはずだ。

問5は三行選択肢であるが、七二・〇%と高い正答率をみせている。選択肢の語句では「契機」などの語が使われているが、しっかり把握できていた。

問6は表現に関する設問で、選択肢②の正答率は四六・五%、④に至っては二五・六%とかなり低かった。④では「ように」などではなく「触れそうに」となると、「比喩(直喩)」とはいえない。誤答は①と⑥に集まった。①の「客観的」という言葉が適当だと判断できれば、⑥の「得体的のしれない気持ち」が薄れていくことも、主観的な思いを脱して客観的な見方ができるようになったという意味で、同じ方向にあると解釈できたであろう。今回のような自伝的色彩の強い作品では、客観的な描写が必要とされているという点を覚えておいてほしい。

第3問 (古文)

状況と敬語に注意し、動作の主語を捉えよう!

平安時代の物語『落窪物語』から、女君と少将の結婚に、女房の阿漕が奔走する場面である。全体の得点率は四三・〇%で、主語把握での失点が目立つ。また文法問題の失点もこの時期としては多く、文法力強化が急務である。

問1の語釈問題は、助詞・助動詞の文法を問う(ア)と、願望の呼応を問う(イ)は六割以上の正答率であったのに対し、慣用句を問う(ウ)は四割程度で、多くの文章に触れているかどうかで差が出た。

問2は新形式である一文の中の単語の文法的説明の問題で、動詞「なる」を断定の助動詞とした不適当な選択肢を選ぶ。正答率は三割で、ウ音便から接続していたこともあるが、この時期としては苦戦した。解説をよく読んで復習しよう。

問3は和歌の説明の問題で、女君が少将を拒否

しているという不適当な選択肢を選ぶ問題で、六割弱の正答率であった。誤答でやや多かったのは、女君が少将の心変わりを中心に配する④であったが、こうした表現は和歌の常套である。

問4は、阿漕に対する叔母の返事の内容を問う問題であるが、約一割の正答率であった。本文では、叔母が阿漕の結婚を疑っているものであるが、女君の結婚を疑う④への誤答が五割近く、主語の取り違えが多かったことがうかがえる。

問5は二か所の主語と心情を説明する問題で、五割を超える正答率であった。叔母の残念な思いと阿漕の感謝を読み取るが、少将の残念な思いと女君の感謝とした誤答が二割を超えた。これも主語の取り違えであり、敬語に注意が必要である。

問6の内容合致問題は、正答率は二割で誤答も分散した。誤答は主語が異なるもの、不審に思ったり喜んだりする対象が異なるものなど、誤解しそうな内容の選択肢になっている。必ず本文と照合し、選択肢と吟味するようにしたい。

第4問 (漢文)

人物や時代の対比に注意して、筆者の意見を読みとろう！

『魏書』列伝の、乱世と泰平の世の治め方について説いた文章からの出題である。得点率は、五〇・七％で、ようやく五割を超えたが、句法を含む傍線部の解釈にもやや苦戦しているなど、まだ伸び代が残されている。

問1は語の意味の問題で、字義だけではなく、文脈上の意味が問われている。①の「制御」はコ

ントロールの意であり、四割強の正答率があったが、①は世が泰平となったならば徳による「教化」となるところを、方針を「転化」と捉えた誤答が五割近かった。もちろん転換はするが、どのようなものかを具体的に述べている単語を入れる。

問2は、短文の解釈の問題で、(1)は「誰」が二人のどちらの意を表しているかは七割の受験者が理解できていたが、二人とも過去の人物であることが理解できておらず、そのうち二割が誤答となった。(2)も反語の句法であることは六割が理解できていたが、そのうち子産のような臣下であることが文脈上読み取れなかった誤答が三割あった。二択に絞ってからの吟味で苦戦している。

問3は、政情不安での人心の掌握のために、子産が刑書を鑄たことを読み取る問題で、五割の正答率であった。誤答でやや多かったのは、国の存亡の危機、民の逃散を防ぐためとした④であるが、言い過ぎの選択肢である。

問4は人物を補って再読文字「当」、願望の「欲」に注意して内容を説明する問題で、正しく子産を補った解答は八割を超えた。一方で子産のような政治を求める高祖の願望の内容を正しく読解した正答は五割であった。

問5は子産のような政治がなぜ良いのか理由を説明する問題であるが、魏が現状まだ覇業が完了していない状況であることも重要なポイントであった。正答率は六割ほどで、今以上に版図を広げようとしていると誤解した③への誤答がやや多かった。

問6は本文全体の趣旨を問う問題で、二つ正答がある。正答率はどちらも六割前後で、まずまずの結果であった。子産の方策が良いとは言っているが、叔向のことを「役に立たない」とまでは言っていないのであるが、③への誤答も二割あった。

Ⅲ. 学習アドバイス

◇高3・高卒生の諸君は、今回のテストでこれまでの学習成果を実感することができたであろうか。国公立の二次試験や私大で国語が必要な受験生は、二次・私大対策にも取りかかっている時期であろう。だがセンター試験のレベルの問題に手応えが無いまま二次・私大対策に突入しても思うような成果は出ない。センター試験レベルの力を固めることは、国語では他教科以上に二次・私大対策に直結する。並行して志望校の過去問研究を進めながらもセンター対策は忘れずにこれからの学習を進めてほしい。

今回のテストで思うような結果が出なかった諸君も、今回の成績に落胆せずに学習を続けてほしい。努力を継続することが何よりも大切である。基礎固めが終わったとしてもそれが即座に成績に現れるわけではない。これまで培った基礎力をベースにこれからの学習を重ねることで、今後の模試、さらには本試で一気の結果を出すことも可能となる。緊張感をもって臨んでもらいたい。

また、センター試験の国語を考える上でポイントとなることに「時間配分」と「漢文」がある。

八〇分という時間の制約の中で効率よく問題を解くためには、自分なりの時間配分や解く順序の工夫が必要だ。これから本格化する過去問演習の際に、意識してほしいことである。

また、漢文は暗記項目が多く、努力が必ず得点に結びつく分野である。大問を解く順序は問わないうが、漢文(第4問)を効率よく解き、現代文や古文に時間を回すことを意識してほしい。

時間配分を制することがセンター試験の国語の得点の最大化につながることを肝に銘じて、残された時間を有効に過ごしてほしい。

◇高2生で、既に本格的な受験勉強に入っている諸君は、とにかくまずは、漢字・語句・古文単語・文法・句法など、必要な基礎知識の習得と拡充に努めよう。読解力の強化、センター試験の問題に対応できる体系的な解法の習得など、学ぶべきことはたくさんあるが、そもそも高度な読解力は、十分な基礎知識がなければ本物にはならない。それをよく自覚して、基礎力の充実に向けた学習を粘り強く積み重ねてほしい。そのうえで余裕のある諸君は、センター試験に特有の解法を意識した学習にもチャレンジしていくとよい。

◇受験勉強はまだこれからという高2生は、受験は目前だという意識を強くもって、まずは基礎知識の習得に努めることが大切である。

諸君の中には、今回のテストを受験して初めてセンター試験とどういうものかを知った人も多いことであろう。センター試験が、高度な読解力の問われるテストであることも感じられたであろう。文章は、難関国公立大学の二次試験や難関私

大レベルの内容として通用するものである。高2の秋の段階でこうした現実が認識できたということとは、実に幸運なことなのだ。ここをスタートラインとしてぜひやるべきことを始めよう。

まずは、漢字・語彙・古文単語・文法・句法といった基礎学習の充実をめざしたい。基礎知識が直接問われることは少ないが、知っていなければ正確な読解ができず、問いにも答えられない。そのことをしっかりと認識して、土台作り⇨基礎事項を身につけることが大切である。今からスタートすれば、高3になる頃には実感が得られるはずだ。

◇高1生で受験した諸君は、どんな感想を持っただろうか。結果はともかくとして、この時期に本格的な受験レベルのテストにチャレンジできたのはたいへん幸運なことである。ここから本格的な学習のスタートを切ってもらいたい。

まずは基礎知識の習得を心がけよう。漢字・語彙・古文単語・文法・句法など、覚えなければならぬことはたくさんある。そうしたものにじっくりと取り組み、自分のものにするのが、本格的な読解力の育成につながる。まだまだ時間的な余裕があるのだからそれを生かして、ぜひ、しっかりと土台作りを実践しよう。そのうえで、次のステップへ進んでいこう。